

## 臨床実習 Q&A

今回は臨床実習についての疑問に Q&A 形式でお答えして参ります。

### Q：実習施設は自分自身で見つけるのでしょうか？

A：本学の実習施設は、臨床実習担当教員が慎重に厳選し、全学生の実習施設を手配しています。そのため、自身で実習地を探す必要はありません。一方で、「実家の近くの〇〇で実習が行いたい」や「自分がお世話になった〇〇に実習に行きたい」等の希望を持っていても、本学の実習施設となっていない場合は実習を行うことはできませんのでご注意ください。

### Q：実習施設にはどのような施設があるのでしょうか？

A：実習施設に関しては、新潟県内では本学の関連病院（新潟リハビリテーション病院・新発田リハビリテーション病院・新潟脳外科病院）をはじめ、県内（上越・中越・下越）の主要な中核病院が本学の実習を受け入れてくれています。また、県外の施設においては本学大学院の急性期理学療法コースの提携施設（神戸市立医療センター中央市民病院・小田原市民病院）など国内（北信越地方、東北地方、関東地方、関西地方など）で先進的・精力的にリハビリテーションに取り組まれている施設（大学病院・総合病院・リハビリテーション病院・スポーツクリニック）が実習を受け入れてくれています。そのため、本学の実習施設はどこの施設で実習を行うことになっても充実した実習を経験することができます。

### Q：自分が行く実習施設はどのように決まるものなのでしょうか？

A：県外の実習施設もある実習Ⅱ・Ⅲにおいては、実習施設の希望に関するアンケート調査を行います。一般的な流れとしては、先輩が残してくれている各施設の情報などをもとに各自で興味のある実習施設の候補を検討した後に、Lab 指導教員に相談をして各々の希望とマッチする実習施設を選んでいく形となります。

### Q：希望した実習施設には必ず行けるものなのでしょうか？

A：アンケート調査では、希望する実習施設を複数記載してもらいます。極力、希望する施設で実習が行えるように配慮しますが、各施設には受入人数（実習を受け入れてくれる人数）に上限があるため、学生間で希望が重複した際などはこれまでの成績などを加味して実習施設を決定していきます。したがって、希望する施設で実習を行うためには、入学後（1年生のうち）からきちんと勉強に取り組んでおくことがとても重要になります。

### Q：慣れない土地（県外）での実習は不安なのですが、大丈夫でしょうか？

A：県外の実習施設の多くは、学科教員と繋がりが強い施設であり、安心して実習を行える関係性が既に築かれていますので不安を感じる必要はありません。その点は、国内最大の教員数を誇る本学の大きな強みであると言えます。

また、本学は開学以来多くの卒業生を輩出しており、県外の多くの実習地にも卒業生が勤務しています。卒業生にとって、実習に来た母校の後輩は可愛いようで、親身になって指導・サポートをしてくれており、我々教員も助かっています。この点も、これまでに多くの卒業生を輩出してきた本学の大きな利点と言えます。

さらに、実習中はいつでも指導教員と連絡が取れる環境を整えていますので、困ったときなどはいつでも相談に乗れる環境が整っていますので安心してください。

**Q：実習にはグループで行くのでしょうか？それとも一人で行くのでしょうか？**

A：臨床実習Ⅰと地域リハビリテーション実習は複数人が1つのグループとなり、同じ実習施設で実習を行います。一方、臨床実習ⅡとⅢは実習施設の受入人数により異なりますが、一人で実習に行くことの方が多くなります。実習開始前は、一人で実習に行くことに不安を口にする学生もいますが、実習施設は他の養成校からも実習生を受け入れている場合が多く、他校の学生との交流を楽しんでくる学生も多いです。また、近年ではSNSやビデオ通話などを利用し、大学の同級生とも頻繁にコミュニケーションをとっているようですので、一人での実習となった場合でも過度な不安を感じる必要はありません<sup>注)</sup>。もし、何か困ったことなどがあった場合は、指導教員を中心にサポートしますので大丈夫です。

<sup>注)</sup> SNSによる個人情報流出については「文部科学大臣が指定する看護師学校等の指定申請等提出書類の作成手引」において防止策が求められています。本学においても、実習施設で得た患者さま（利用者さま）や職員の個人情報を家族や友人に話したり、SNSで流出したりすることが決して無いように、個人情報の流出防止については実習前のオリエンテーション等にて徹底した指導を行っています。

**Q：臨床実習を円滑に進める上でどのような準備が必要でしょうか？**

A：臨床実習を円滑に進めるポイントは大きく2つあると思います。

1つ目のポイントは、臨床実習で必要となる「知識」と「技術」をしっかりと身につけておくことです。そのための最短かつ最適な方法は、各実習前までに開講される授業を受け身ではなく積極的な姿勢で取り組んでおくということです。理学療法に必要な「知識」や「技術」は、一朝一夕で身につくものではありません。日々の積み重ねが最終的には大きな差となり、臨床実習が円滑に進むか否かにおいても大きく左右すること認識しておくことが大切です。

2つ目のポイントは、医療従事者となる自覚を持つという事です。臨床実習を円滑に進めるためには、指導者の先生方や実習に協力頂ける患者さまと良好な人間関係を構築す

ることが大切です。良好な人間関係を構築するためには、医療従事者（実習生）として相応しい身だしなみ（頭髪や服装など）や言葉使いや最低限のマナーを理解し、身につけておくことが重要です。また、大学には大学のルールがあるように、実習施設には実習施設のルールがあります。臨床実習では、各施設のルールに則り、わからないことなどがあつた際は、自己判断することなく「報告・連絡・相談」をすることが求められます。これらのことは、医療従事者そして社会人となる上で必要不可欠な事柄であり、臨床実習でも重要視されます。本学では、実習前にオリエンテーションを行い、臨床実習の心構えや身だしなみ、諸注意などを確認しております。しかしながら、知識や技術と同様にすぐに実践できるものでもありません。したがって、入学後から自分は理学療法士・医療従事者になるという自覚を持ち、臨床実習時に適切な立ち振る舞い出来るように意識して大学生活を送っておくことが重要となります。